

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090800113		
法人名	株式会社 ホームケアサービス		
事業所名	グループホーム 三苦駅前 (北ユニット)		
所在地	〒811-0201 福岡県福岡市東区三苦4丁目8番1号	092-410-7233	
自己評価作成日	平成24年12月25日	評価結果確定日	平成25年02月07日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

高齢者複合施設の2階に2ユニットがある。南北に分かれているため、南ユニット、北ユニットと名付けている。併設施設には1階に小規模多機能型居宅介護、3階に有料老人ホームがある。定員9名の各ユニットに男性3名女性6名と南北同じ比率で入居されており、全館通しての特徴で男性のご利用者が他の施設に比べ多い比率となっている。ユニットそれぞれに特色があり雰囲気も違い生活されている方々の個性が出ている。複合施設のため年中行事を合同で開催することも多く「秋祭り」「餅つき」などは大勢で賑やかに開催している。毎月のレクリエーションとして「誕生会」「外出」「外食」などを取り入れ季節感を味わいながら楽しく生活して頂ける様努めている。また、日々の生活も今までの生活歴を大切に役割を持った生活が継続出来るよう支援している。原土井病院のグループ施設で協力医療機関とし連携を図っている。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5-27	093-582-0294	
訪問調査日	平成 25年01月22日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足 していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果 (北ユニット)

(セル内の改行は、(Alt+Enter)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	十分ではないが共有し実践できるよう努めている。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	利用者と地域の商店での買い物や散歩に行くことや近所の美容室を利用している。また、地域の保育園児、老人クラブの訪問など交流をしている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	協力医療機関である原土井病院の副理事長より「認知症について」の勉強会の機会を設け、地域の皆様にも参加して頂いた。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設内での活動報告、入居状況等を毎回報告している。参加して頂いた皆様からは意見、要望、アドバイスなどを頂戴し今後の改善点とし、地域の情報なども町内の方々より教えて頂く場となっている。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事故報告時、運営推進会議で連絡や報告を行っている。また、介護保険関係の申請時などで区役所を訪問し挨拶、報告を実施している。また、空室状況の連絡なども随時行っている。		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ユニット玄関は日勤時は開錠しており自由に出入りすることができる。身体拘束ゼロマニュアルを作成し職員全員がいつでも目にするようにしている。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	福岡市開催の研修に参加した職員が報告書やミーティングにより伝える機会を設け他職員にも周知している。職員間でも日頃より言葉遣いなどを意識するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員に制度の必要性の理解はあり研修の参加は実施している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には契約書、重要事項説明書を読み合わせ内容について疑問や質問を受け説明し、理解して頂けるよう努めている。		
10	7	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃の会話、面会時に意見、要望を尋ねている。利用者への食事アンケートを実施し、アンケート結果を職員に報告した。		
11	8	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングで出た意見や提案は検討事項とし反映し改善している。また、個々に出た意見も改善できる部分は考慮している。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や実績が反映されるよう考えられ毎年昇給が実施されている。職員が働き易く長く努めて欲しいと希望している。		
13	9	人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員採用については性別や年齢にはこだわらず募集、採用している。一人一人の得意な部分が發揮できるよう努めている。		
14	10	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	「利用者の立場になって考える」ことを大切にしている。羞恥心への配慮など、場面場面での対応が教育の場となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部、外部研修へは勤務の状況に合わせ参加できるよう努めている。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協議会への参加がまだ出来ておらず同業者との交流機会はまだ作れていない。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人やご家族との面談、担当ケアマネ、ソーシャルワーカー、看護師等からの情報を得て関係づくりに努めている。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み時点で不安、悩み、問題点などを聞き取り、入居決定時に要望、希望などをより細かく聞き安心して頂ける関係づくりを心掛けている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の状態を考えながらサービス開始時期や落ち着ける場所の選択を他のサービス利用も視野に入れ考えるように努めている。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の生活歴を大切に、その方の出来ることを見極めながら出来ることを継続していく支援に努めている。		
21		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院受診、外出などで協力して頂きご家族との関係も大切にしている。誕生会など行事に参加していただいている。遠方のご家族から定期的に手紙を送っていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>ご家族と一緒にご近所の馴染みの方々が面会に来られ一緒に過ごされている。デイケアへ通われ馴染みの人たちと過ごされている。</p>		
23		<p>利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>強制ではないが、利用者の雰囲気を読み取りながらレクリエーションに参加して他の利用者に関われるよう、声かけをしている。</p>		
24		<p>関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>治療により病院入院で退去となられた方などをお見舞いに行き状態観察や必要であればご家族とも連絡を取り関係を継続していた。</p>		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>十分ではないと思うが本人、ご家族の意向を確認しながら希望に添うように努めている。</p>		
26		<p>これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居前の担当ケアマネ、ご家族や関係者の方より聞き取り情報収集を行っている。</p>		
27		<p>暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>毎日の申し送り、介護日誌、観察記録、バイタル測定、言動観察などを通し職員全員で把握できるよう努めている。</p>		
28	13	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>ミーティング時に入居者全員の支援内容を話し合い、ご家族面会時に希望・要望を尋ねながらケアプランに活かすよう努めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	連絡ノートを活用しケアの方法や実践の見直しがあれば職員全員で情報を共有し把握に努めている。		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	「自宅に連れて帰りたい」という配偶者の希望を、遠方のご家族と相談しながら、一時帰宅を計画している。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設隣の畑を地主様から借用し、野菜作りに取り組んだ。畑仕事ができるご利用者と職員と一緒に作業し収穫した野菜は食事提供した。地域の子ども育成会の資源物回収に協力している。		
32	14	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診日は事前に連絡し、主治医から説明を聞かれないご家族には往診日に立ち会い説明を聞いて頂ける体制をとっている。また、ご家族による受診の方には必要に応じ看護師より状態変化などを伝えるよう努めている。		
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	申し送りに看護師も参加し状態把握に努め、処置が必要な時には連絡を取り実施している。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先での病状把握に努め、早期退院ができるよう看護師、病院関係者と連絡を取っている。また、必要であれば医師とのムンテラにも参加している。		
35	15	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合の施設の支援の体制を説明し同意書を取り交わしている。グループ内の看取り経験が生かされるよう情報交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が普通救命講習を受講し、当施設内でも消防署を招き講習会を実施した。		
37	16	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に全館合同での避難消防訓練を実施している。		
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員間で注意するよう気をつけてはいるが、意識が薄れていると口調が強くなったり、大きな声を出している。		
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レクリエーションに参加していただけるよう工夫して声かけをしているが、無理やり強制することはなく、ご自分が好きな事をして頂いている。しかし孤立されないよう配慮している。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課はあるが、個人のペースや希望を大切に支援するよう心がけている。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	同じ洋服が続かないよう、クローゼットを整理整頓して服の入れ替えに努めている。髪を染めるために美容室へ付添支援している。お化粧品はご自由にさせていただいている。		
42	18	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食手作りの食事提供をしていたので、食材の準備などできる所は手伝っていただき一緒に進んでいた。手伝える方には配膳や下膳、お盆拭きなどを手伝っていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量を記録し状態把握に努め、水分量が少ないときは、紅茶や牛乳など好みもので摂取していただいている。高血圧の方は他の方よりも、塩分を控えたものを提供している。		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの実施、声かけを行っている。また、状態低下により口腔ケアが不十分な方などは訪問歯科を利用し口腔内の清潔保持に努めている。		
45	19	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限り布パンツを使用していただき、レベル低下が観られる方には、排泄表の活用を行いながら、失敗がないよう声掛けや誘導に努めている。		
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	申し送りで個々の排泄状況を確認し合い、できるだけ便秘薬を使用しないように適度な運動、乳製品、黒ごまきなど摂取などの工夫をしている。		
47	20	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが希望や必要に応じて変更し対応に努めている。		
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体力や生活習慣に応じ、臥床時間を設ける、休息するなど対応し夜間の安眠につなげている。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書はご利用者カルテにファイルし全職員が把握できる状態となっている。また、薬の変更があった時にはその都度連絡し把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	配膳準備、後片付け、洗濯物干し・たたみなど主婦としての役割を継続されている。畑に野菜が育ったときに収穫を手伝っていただいている。		
51	2.1	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良いときは近所へ買物に行く、散歩するなど支援している。また、月1回程度の外出レクで外食、コスモス見物などを企画、実施している。		
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の希望により小銭程度を所持されている方は自己管理で現金を所持されている。		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望時に使用、手紙のやり取りもあり希望時は葉書や手紙を預かり投函している。		
54	2.2	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	臭気への配慮、安全な導線確保に努め、光はカーテンや蛍光灯で調整している。季節感を出すために季節に応じた貼り絵、飾りをしている。心が和むよう食卓に花を飾り楽しんで頂いている。		
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご自分が好きな場所で過ごして頂ける様に配慮している。		
56	2.3	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が過ごしやすいようご家族と話され、使い慣れた物や壁飾りなどで個性ある居室作りとなっている。		
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホールの壁、トイレ、脱衣室、浴室に手すりを設置し安全に移動を支援。トイレはわかりやすい表示としている。ご自分の居室が分からなくなる方には、好みの絵を貼るなどの工夫をしている。		